

在内地外内地人人口の標準化動態率

館 稔 窪田 嘉彰

(厚生省人口問題研究所)

1) 目的 第1巻第8號所載館稿の目的の1部として、在内地外内地人人口の動態率を男女年齢別配偶關係別構成について標準化して比較しやうと試みる。

2) 方法 ア) 標準化法は Newsholme-Stevenson の間接法に據る¹⁾。イ) 標準人口は大正14年内地人口構成を用ふ。ウ) 中國、英領マレイ、比律賓及蘭領印度の普通動態率は東亞研究所「昭和11年、12年在外本邦内地人人口動態統計」に據りて算定。

3) 結果 別表参照。ア) 最近年次に於て内地よりも標準化出生率の高い地域は、比律賓、臺灣、南洋群島及び樺太であつてこの順位である。内地よりも低い地域は關東州、中國、英領マレイ及び蘭領印度であつてこの順位である。イ) 最近年次に於て内地よりも標準化死亡率の高い地域は樺太のみであつて他の地域は何れも低い。ウ) 最近年次に於て内地よりも標準化自然増加率の高い地域は、比律賓、臺灣、南洋群島及び樺太であつてこの順位である。内地よりも低い地域は中國、關東州、英領マレイ及び蘭領印度であつてこの順位である。エ) 標準化死亡率の地域的差異の幅は、同出生率のそれよりも小であつて、在内地外内地人人口についても増殖力を決定する *démographie* 的要因は出産力に在ると思はれる。オ) 外地について、過去20年間毎5年の標準化動態率の變化をみると、A) 出生率の明瞭な上昇と死亡率の顯著な減退とを示して増殖力の著しい増大を示してゐるのは、南洋群島であつて、樺太がこれについてゐる。B) 増殖力は依然として大ではあるが、出生率は幾分減退の傾向を示し、死亡率の明瞭な減退を認め得ないのは臺灣である。C) 關東州の増殖力は極めて低いが出生率及び死亡率に明瞭な傾向を認めることは

1) A. Newsholme: The Elements of Vital Statistics. 1923, 216-229.

困難である。

カ) 外地及びその他4地域について普通動態率と標準化動態率を較べると、A) 臺灣及び英領マレイを除いて他の地域では、いづれも普通出生率は過大に現はれてゐる。B) 普通死亡率は全地域について過小に現はれてゐる²⁾。

地域	年次	標準化			普通		
		出生率	死亡率	自然増加率	出生率	死亡率	自然増加率
日本(内地)	大正 9	35.96	25.49	10.47	36.19	25.41	10.78
	14	34.92	20.27	14.65	34.92	20.27	14.65
	昭和 5	33.29	18.13	15.16	32.35	18.17	14.19
	10	33.70	17.02	16.68	31.63	16.78	14.85
樺 太	大正 9	29.77	41.45	-11.68	35.33	34.36	0.98
	14	28.27	23.32	4.95	32.18	19.26	12.92
	昭和 5	31.99	23.71	8.28	37.38	20.33	17.05
	10	34.97	18.04	16.93	37.40	15.65	21.74
關 東 州	大正 9	21.92	27.28	-5.56	31.91	20.15	11.76
	14	25.75	22.17	3.58	35.42	14.89	20.53
	昭和 5	28.87	24.02	4.85	35.83	19.28	16.55
	10	20.14	13.41	6.73	23.01	10.62	12.39
臺 灣	大正 9	36.54	24.22	12.32	32.76	19.10	13.66
	14	49.12	13.34	35.78	34.59	11.33	23.26
	昭和 5	39.64	14.35	25.29	29.86	11.84	18.02
南洋群島	10	33.28	13.12	25.16	29.56	10.91	18.65
	大正 9	—	—	—	—	—	—
	14	35.13	16.25	18.88	51.95	12.52	39.43
中 國	昭和 5	36.00	15.92	20.08	52.38	13.41	38.97
	10	36.64	15.77	20.87	49.59	13.32	36.27
	昭. 11-12	20.46	15.88	4.58	23.37	12.33	11.04
英領マレイ	"	22.17	10.73	11.44	20.05	7.67	12.33
比 律 賓	"	39.29	10.31	28.98	43.19	8.11	35.08
蘭領印度	"	27.50	12.03	15.47	29.89	8.70	21.19

日本内地及樺太は總人口、他は内地人のみ。

2) 以下比較参照；曾田長宗：在臺内地人及び臺灣本島人の自然的人口増加に關する批判的考察；濱井生三：東亞諸地域に於ける日本人の人口動態；以上はともに人口問題研究会：第4回人口問題全國協議會報告書(上)，昭16，所載；東亞研究所：東亞諸地域に在住する日本人の人口動態に關する2, 3の考察。

4) 括要 ア) 内地人が内地外に現在する場合増殖力は必ずしも下ると云へないとともに上るとも云へない。地域によつて大なる差異がある。然し一般に内地外に於ては、現在のところ低減が認められる。

イ) 内地人は南方に現住すると死亡は少くなり出産力は高まるとして生物學的熱帯適性の一つの根據にこれを用ふる説があるが、ここに得られた結果だけでは速断を許さない。

ウ) 本稿で除去されてゐない職業別構成の差異を考へねばならぬ。特に農業人口の割合が出産力に與へる影響は大であると推定される³⁾。各地域の農業人口率はつぎの如くである。外地は昭和5年、その他の地域は昭和10年。比律賓の出産力が英領マレイ、蘭領印度等より特に高く、中國、關東州等に於て低い理由の1はここにあると思はれる。

	%		%
樺太	123.4	中國	0.6
關東州	5.6	英領マレイ	22.5
臺灣	19.5	比律賓	275.6
南洋群島	271.1	蘭領印度	31.5

エ) 内地人人口については、在内地と在外地とを問はず出産力減退が全面的に波及してゐるといふ事實は、現在では認められない。この點、白色人種とは異つてゐる。

(受附：昭和17年5月8日)

3) 人口問題研究所出産力調査結果参照。